



[ei,ei]

「自然や環境」のことに触れたいなったり、  
ライフスタイルを考えたりするヒントが  
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。



CONTENTS

- ◆あまピヨ「木の実と仲間探しの旅」vol.3
- ◆情報交流コーナー：あま・あま・ボン  
・CANAL FRIDAY を開催！
- ◆尼崎物語 vol.5 「古城を巡って」
- ◆尼崎の海への恩返し  
～ネイチャークラブの運河の  
命の循環の取り組み～
- ◆What's  
「尼崎21世紀の森づくり？」

【エイ・エイ】  
環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン  
2019年10月23日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.amashin21mori.net/>

個人限定

毎月1万円  
契約期間2年

育てる苗木で育つ預金  
定額積立定期預金

# どんぐりの木

き

当金庫が取組む「あましん緑のプロジェクト」にご賛同いただき、「苗木の里親」として「苗木2本」を商品契約期間（2年）の間、育てていただきます。満期後、育てた苗木を尼崎の森中央緑地に植樹する環境保全商品です。

**お取扱期間** 令和元年6月3日～令和元年10月31日（第9回目）

第6回：平成28年6月1日～10月31日 第7回：平成29年6月1日～10月31日  
第8回：平成30年6月1日～10月31日 第9回：令和元年6月3日～10月31日

- 1.新規ご契約時に「花の種」をプレゼント
- 2.満期時には「エコグッズ」をプレゼント

※満期時のプレゼントは、当初ご契約いただいた本商品の目標積立額の掛込が終了されたお客さまにのみです。



## 「あましん」環境活動 NEWS

令和元年6月1日（土）に尼崎の森中央緑地において、当金庫役員約1,000名で「あましん活動の森」の除草・間伐活動を実施致しました。「尼崎21世紀の森づくり」の一環として、例年開催している「あましん植樹祭」でお客さまと植樹した苗木をしっかりと育てていく為の活動です。

これまで地道に除草を続けてきたことで、間伐が必要なほどに成長した木が年々増えていき、今回は約500本の間伐を行いました。植えたときはまだ小さかった苗木の成長を体で感じながらの作業でした。間伐は木をより大きく、幹を太くするために必要不可欠な作業です。平成から令和、そして次の時代に「森づくり」をつなげていくために、当金庫はこれからも森の成長に合わせた活動を続けてまいります。



「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。

**尼崎信用金庫**

AMASHIN

<http://www.amashin.co.jp>

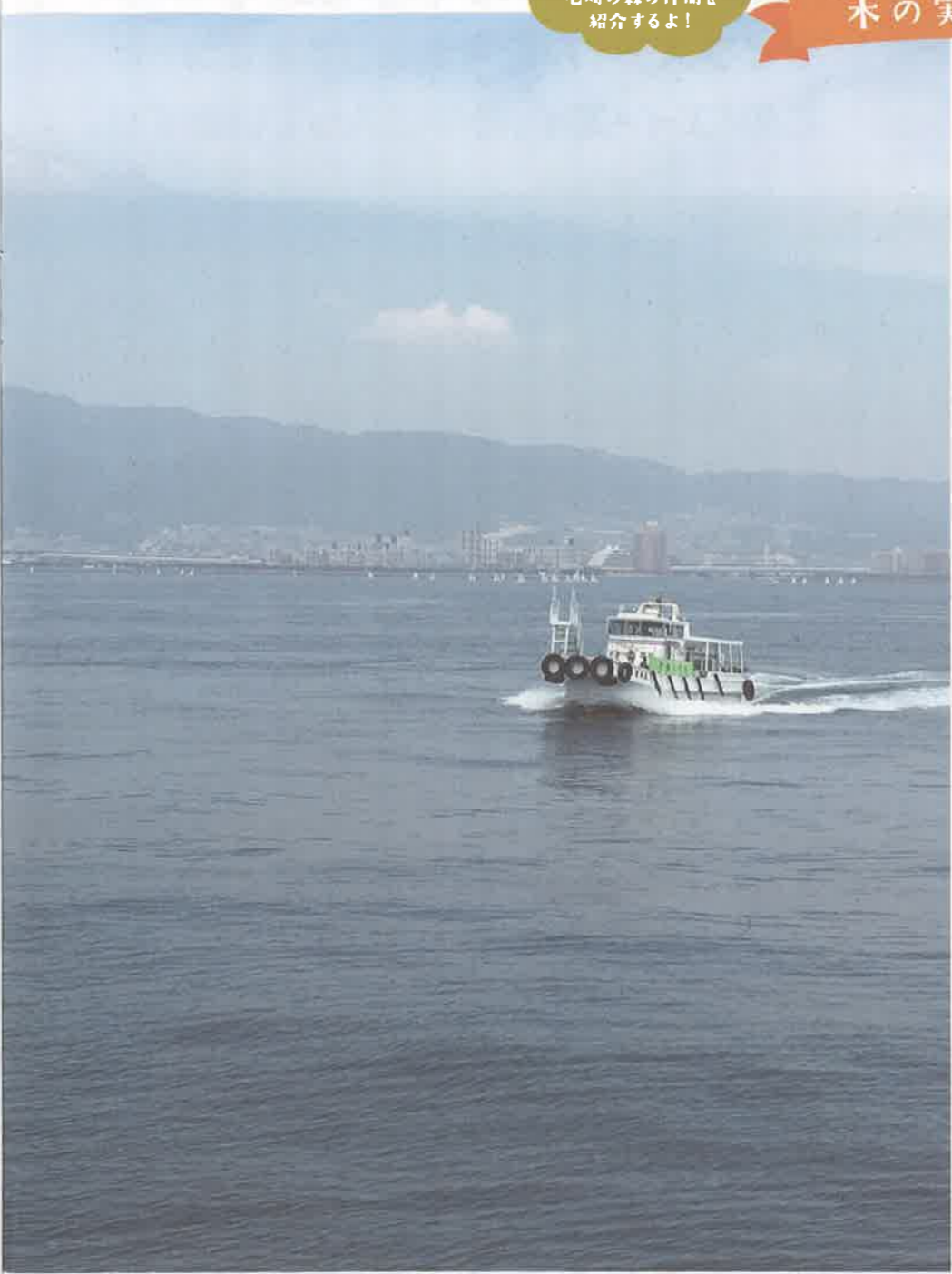
あましん 検索





21世紀の森で生まれた「あまびよ」が、森を出て尼崎の森の仲間を紹介するよ!

# 想像以上の豊かさに驚き! 尼崎の海の生き物たち



武庫川一文字:武庫川河口に東西約4.5kmに伸びる長大な防波堤。陸とはつながっておらず、船で渡る。



宮本健司さん

## 尼崎の海に イルカ現れる!

2019年1月、突如20頭<sup>ふたじゅう</sup>くらいのイルカの群れが、なんと武庫川の河口に現れ、周囲を回遊。  
ニユーズや新聞などで話題になった「尼崎のイルカ」。その第一発見者である宮本悦男さんは、武庫川渡船の若き3代目で、武庫川河口から一文字まで釣り人を船で送迎する中で、いつか尼崎の海と向き合っています。尼崎の海で出会った生き物や海の世界についてお話を伺いました。

イルカを見たのは、今回が初めてでは無かった!

2、3年前から1〜2頭のイルカの姿を見ることが、たまにあった。昨年は、鳴尾浜臨海公園の前の海にも出没。でもこんな10頭もの大きな群れに出会うのは初めて!

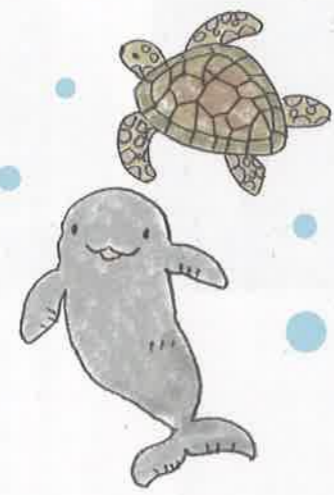
海面に何かが潮を噴くのが見えて、不思議に思っていたら、イルカが突如現れた。イルカは近くまで寄ってきて船と並走したり、船の下をくぐったり遊ぶようなしぐさも。1週間くらい武庫川沖周辺を回遊しその後いったん姿を消したが、再び3週間おきに武庫川沖にやって来るようになった。

釣船仲間の情報によると、堺や明石などでもイルカが目撃情報があったので、大阪湾を回遊していたと思われる。



宮本さんと武庫川渡船

しかし、3月に「尼崎の海釣り公園」沖で、漁船が網を引いているところにたまたまイルカの群れがバツティング。危険を察知したイルカは沖へと逃げてしまい、その後姿を見かけなくなりました。



実はウミガメや  
スナメリ、マンボウも!

岸近くまでは寄ってこないが、一文字沖でよくウミガメを見かける。釣り人から、ダイバーがいると通報があり、慌てて見に行くと、たいていウミガメ。また、5〜7月くらいに沖でスナメリを見ることがある。スナメリは泳ぐのが早いので、すぐに見えなくなってしまう。

尼崎の海は、大阪湾を北上してくる潮の流れがぶち当たるとん詰まりで、潮の流れに乗って多くの魚がやってくる。

また、武庫川と淀川の上流から大量の養分が流れ込み豊かな海環境が作られる。イルカが尼崎にやって来るのも、餌となる小魚の群れが豊富なことが要因。小魚が豊富だと、それを餌にする大きな魚もやってきて、豊かな漁場を作り上げる。

武庫川一文字では、春には、1mを超えるブリや鯖が釣れる。秋には太刀魚が有名。  
最近では、黒潮が蛇行する影響なのか、バショウカジキやシイラなど今まで見たことのないような魚が一文字で釣れることも。11月にはマンボウを見かけたりも!

チヌの炭火焼き

カサゴのフライ  
シューシーな  
旨味が口の中に  
広がります

皮を軽くあぶった  
チヌのお刺身  
をあえて出汁で  
食へました。が、  
まったく臭みが  
なく、脂がのって  
ぶりぶり

取材・文/守 宏美

## 実は高級魚!? 尼崎産の魚

尼崎には漁師がいないので、泉州や明石から漁船がやってきて、武庫川沖で船が傾くくらいとっさり魚を獲っていく。魚は水揚げした港の産品となるため、尼崎産のススキやチヌが、泉州産や明石産の巨網の高級魚となって、高値で取引されている。  
尼崎のスーパーでも武庫川沖の魚がバックになって並んでいるから、あなたも知らないうちに食べているかも。

## 自分で釣って食べよう!

毎週末には、初めて釣りをする方にも安心な手ぶりでOKの釣り教室が開催されています。  
竿のレンタルも無料。釣った魚をさばいてもいい、BBQで食べることもできます。

【武庫川渡船】  
兵庫県尼崎市平左衛門町66  
尼崎市海釣り公園地下  
06-6430-6519

## 武庫川フィッシュが 食べられる スペインバル

【小皿料理: コンテンタ】  
スズキ、鯛、カサゴなど季節の魚をスペイン風にアレンジした逸品がいただけます。  
大阪府豊中市蛍池東町2-7-2-101  
(阪急宝塚線蛍池駅下車徒歩2分)  
06-6841-1656



【尼崎物語】未来と過去をつなぐ旅

### vol.5 古城を巡って



再建された新・新?尼崎城。

今年、尼崎城の再建が大きな話題になりました。でも今回の主役はこれのお城ではなく、もうひとつの尼崎城。中世尼崎城、尼崎古城、また大物城と呼ばれていたこともあります。今の尼崎城よりも少し東、大物の町を囲む水路の港跡に、1500年代に細川高国が築城したとされています。室町幕府の有力者であった細川家では養子同士の内紛が絶えず、京都への入口・尼崎は、しばしば戦場となりました。1531年、高国は天王寺から中島方面にかけての大規模な戦いに敗れ、大物に逃げ隠れるも捕まり自害します。この争いは大物崩れと呼ばれ、長く人々の記憶に残りました。

尼崎古城が舞台となるもうひとつは、織田信長の時代です。池田家臣であった荒木村重が、信長の後ろ盾を得て池田城、伊丹城を奪い取り、尼崎を含む摂津地域を治めます。伊丹を治めます。伊丹城を丹城を有岡城と改名、大きな城下町を作つて、息子、村次を尼崎古城に配置しました。織田信長が村重を配下に入れた理由のひとつは、長年の敵、石山本願寺を攻めること。今、大阪城がある台地にあつた本願寺に、毛利勢が物資を運ぶのを阻止するには、海に近い尼崎・伊丹が好都合だったので。しかしこの争いは難航し、徐々に信長との関係が悪化した村重は、1578年ついに叛旗を翻します。仲間の中川清秀、高山右近らが信長に屈し、村重は尼崎へ移つて態勢を立て直そうとしますが(単身逃げたという説も)、結果、有岡城は陥落、村重の家族、一族は京都で、家臣や城の従事者も尼崎の七松(ななまつ)で、残虐に処刑されました。それでも尼崎古城は1580年まで戦い続け、毛利



処刑の時も寓としていたと伝えられる荒木の妻子が暮らした伊丹の有岡城跡地

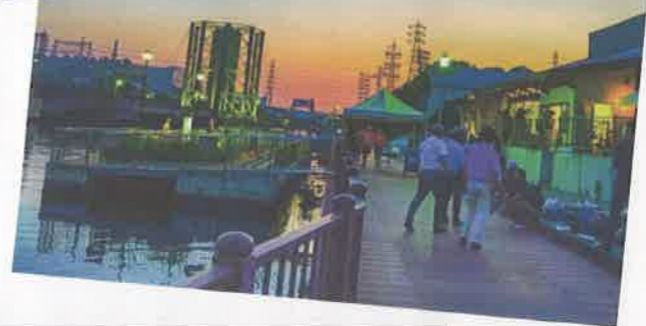
に亡命した村重はすべてを失い、堺で生涯を終えます。この荒木村重の裏切りは、多くの歴史ファンを魅了するようで、解釈もいろいろです。遠藤周作も長編小説『反逆』で、村重がなぜ信長に逆らつたのかを詳細に描きました。信長と会つた日に受けた屈辱の記憶が、信長に不信感を持つ人々を引き寄せ、反乱への様々な要因を生み出してしまふ。いずれにせよ諸説に共通するのは「相手が信長だから」。少しでも疑われたら終わり、という危機感が、この時代の空気を支配しているようです。とても過酷で激動の戦国時代。有岡城は廃城となりましたが、尼崎古城はこの戦いの後も残り、江戸時代に場所を変えて再建されました。海の入口、尼崎城は、内陸の都市にとって要であり、それが荒木とその家族の生涯にも大きく影響したのです。



大物崩れの碑は、今も大物駅近くに

(文・写真 横山知代子) 協力: 辻川 敦氏(尼崎市立地域研究資料室館長)

CANAL FRIDAY 5月24日(金)



令和元年5月24日(金)、夕方17:00〜約三時間、尼崎北堀運河の北堀キャナルベースにて、週末の金曜日を楽しむ大人のイベント「CANAL FRIDAY」が開催されました。2007(平成19)年から続く運河に親しむイベント「うんぱく」から派生した、トワイライトイベントです。金曜日の夜に開催することで周辺の企業で働くの人たちが仕事帰りにふらっと立ち寄り、運河に親しんでもらうことを目的にしたイベントです。



◆当日は、約300人の方が来られました。



◆春と秋、それぞれ2回づつ、年間4回引き続き開催する予定です

# あまあまポン

このページでは「尼崎21世紀の森づくり」の活動の様子をお知らせします。





尼崎臨海部にかつての**自然環境＝美しさ**を取り戻したい。  
日本の**発展を支えてきた誇り**を取り戻したい。  
かつてこの地に存在した**人間の活気**を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に  
『**尼崎21世紀の森構想**』は、策定されました。それが尼崎市全体に  
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。

**江戸時代**  
この尼崎には尼崎城という江戸幕府の直轄地であった、大坂の西の玄関口を守る重要拠点があったのをご存知ですか？

**明治の初め**  
この瀬戸内海が「世界で最も魅力的な景観」と絶賛されていたのをご存知ですか？

**明治から昭和**  
高度成長期の尼崎  
この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか？

**昭和40年代**  
この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか？

**近年**  
巨大工場が建設され一時的に臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、世界経済の波の中で再び冷えている事をご存知ですか？

**これから『尼崎21世紀の森構想』**  
かつての**自然環境＝美しさ**  
日本の**発展を支えてきた誇り**  
**人間の活気**  
を取り戻したい。

一緒に尼崎21世紀の森づくりをしませんか！  
編集スタッフを募集しています！

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン  
エイ・エイ：2019年17号（10月23日発行）  
NPO 尼崎21世紀の森 Aa 編集局  
ホームページ <http://ama21mori.net/>  
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F  
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三  
Editor/Writers 池田 和也 幸野 里砂 森上 恒  
泉原 久人 菅 真澄 藤原 悟  
石井 康之 中岡 禎雄 舟田 温子  
薄井 洋一 守 宏美 山本 仁湖  
太田 洋平 森井 敬介 横山知代子  
Designers 児玉 泰江 鳥山 大樹 ヒロコ・TG  
杉本さやか 田万まどか  
Print ウニスガ印刷(株)

環境改善を利用した先進的な「まちづくり」それが『この尼崎21世紀の森構想』の本質です。  
ナカナカ素敵な計画だと思いませんか？  
100年間のこの計画、進めて行けるのは、  
この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

**編集後記**  
初めまして、舟田と申します。出身は大阪の吹田市で、現在は淡路景観園芸学校で造園やランドスケープについて学んでいます。森が私たちの暮らしの中にもっと身近な存在になればいいなと思っており、色々な場所を見学して回っています。ご縁があって、一度尼崎の森にも遊びにおいでよとお誘いいただき、先日仲間に入れていただきまして、よろしくお願ひします。  
今年6月に尼崎の森中央緑地に訪れ、製鉄所跡地に市民の皆さんや企業の方と一緒に森を育てている素敵な場所があると知り、関わりあっておられる方のお話を伺うと本当に尼崎愛が溢れていて、今後ますます尼崎の森は、暮らしの中で欠かせない大切な場所になっていくんだろうなとわくわくしています！  
(舟田温子)



ネイチャークラブは、自分たちの生きる地域の環境をよりよくしていくことを目的に平成19年に結成されました。結成当初、成良中学校の生徒が中心となって始めた巣箱づくりや観察活動は、自然環境や野生生物保護の心を育みながら、尼崎21世紀の森づくり、尼崎の川、海、運河の水質浄化活動へと広がっています。そしてこれらの活動を「命あるものが共生しあえるまちづくり」へと発展させてやっています。

**G20で尼海の活動を世界に発信**  
6月28日から29日にかけて、大阪20カ国・地域首脳会議（G20大阪サミット）が行われました。29日には、各国首脳の配備者による「海は輝く命の源」と題し

たシンポジウムが大阪府庁本会議場で開催され、ネイチャークラブの中学生が尼崎の海や運河での活動と、その思いを世界に向けて発信しました。



**これまでの取り組みと気づき**  
ネイチャークラブでは、「命の尊さ」や「形は変わりつつも命はつながり続ける循環」をテーマとして、尼崎運河や尼崎の海の水質浄化、尼崎21世紀の森づくりの活動に取り組んできました。これらの活動から森、川、海、空はつながっていて「人間の生活を映す鏡」であるということに気づくことができました。

特に近年は、地球温暖化や異常気象の影響と思われることが観察の中で長く感じられるようになってきました。今回の発表は、尼崎市立成良中学校の3年生3人が原稿を考え、自分たちの思いを自分たちの言葉で伝えようと考えました。そして自分たちの活動のテーマである「循環」を世界の共通語にしたいという思いから発表しました。本文では「ALPHA BETT」で「JYUNKAN」と記載することにしました。

**活動を支え合う人々**

発足当初から中学生が中心だったネイチャークラブは、今では子供から大人までの幅広い世代の集団になりました。中学を卒業しても活動を続け、後輩の面倒を見てくれる学生や社会人、フォーラムでの発表や、新聞に掲載された記事を読んで共感してもらえたことで、活動に協力してくれる仲間も増えました。そして互いに助け合いながら持続可能な開発目標（SDGs）に取り組むための他地域との交流も盛んになっています。

**G20での発表**

今回の発表は、尼崎市立成良中学校の3年生3人が原稿を考え、自分たちの思いを自分たちの言葉で伝えようと考えました。そして自分たちの活動のテーマである「循環」を世界の共通語にしたいという思いから発表しました。本文では「ALPHA BETT」で「JYUNKAN」と記載することにしました。

**発表本文**

私たちは兵庫県尼崎市にある成良中学校のネイチャークラブのメンバーです。私たちは生き物の力を利用して、海や運河の水質浄化や生物多様性につながる活動を行ってきました。そして海や運河で育った海藻を肥料にして尼崎の海辺に森や畑をつくる活動につなげています。  
この活動から私たちが日本に伝わるJYUNKANという言葉の意味を学び、多くの仲間をつくることができました。  
私たちは地球の生物たちの命のつながりによって生きることができると信じています。地球のすべての命は、形は変わりつつも、つながり合い、支え合い、受け継がれています。これがJYUNKANなのです。  
世界の人々がJYUNKANの意味を理解して生活することができれば争いのない平和な社会をつくることができると信じています。JYUNKANのもとに私たちはみんな仲間なのです。  
このことを世界の人々に伝えるためにもこれからも活動を続けていきたいと思います。  
この尼崎の中学生たちの思いが広まり、世界を変えることを信じています。

ナカオカ サダオ  
中岡 禎雄  
●ネイチャークラブ体験教室研究所代表  
●徳島大学 理工学部 非常勤講師  
●芦屋大学 教育学部 非常勤講師

この発表に至るまで多大なる協力を頂いた兵庫県尼崎港管理事務所、尼崎市、大阪湾広域臨海環境整備センター、一般財団法人尼信地域振興財団、あまがさきエコクラブ、徳島大学、芦屋大学、株式会社播磨屋に深く感謝申し上げます。